



今年に入り徐々に調子を上げている駒大選手達が、その成果を試すべく、関東インカレと日本インカレの2大会に臨んだ。

ルーキー宇賀地は、両大会で10000㍍での表彰台へ挑戦。昨年1500㍍2連覇を果たした大坪は3連覇へ向けて、インターハイチャンピオンという実績を持つ高林も、優勝を射程圏内に入れて1500㍍のレースに出場した。400㍍ハードルで和田は、昨年目標に掲げたファイナリストを目指して力走する。そして、かつての歴代有力選手も活躍したハーフマラソンの舞台には、自身もこの種目を得意とする堺が、暑さの中し烈な競争に臨んだ。(酒)

第85回関東学生陸上競技選手権大会

1日目 この日の注目は10000㍍。1位も十分に狙えるレースで、駒大からは宇賀地、深の3人が出場した。

レース終盤までは上位を宇賀地、豊後がキープするといういい流れできていた駒大だった。しかし、土壇場で中央学大、大東大が猛スパートを展開。駒大は上位を明け渡すこととなってしまった。結局この順位を最後まで挽回できず、大東大に表彰台を独占されるという屈辱を味わった駒大は、宇賀地の5位が最高という不本意な結果に終わった。

またこの日行われた400㍍、3000㍍障害でも駒大は思うような結果を残すことができず1日目は本来の実力を発揮できないまま冷たい雨と共に幕を閉じた。(田)

種目	順位	氏名	記録
5000m	1位	高橋優太(城西大)	14分12秒42
	2位	木原真佐人(中央学大)	14分12秒77
	3位	宇賀地強(法1)	14分14秒60
1000m	1位	金塚洋輔(大東大)	29分19秒06
	2位	佐々木悟(大東大)	29分19秒50
	3位	加藤徳一(大東大)	29分20秒99
ハーフ	1位	森脇佑紀(神大)	1時間04分44秒
	2位	山下拓郎(亜大)	1時間04分46秒
	3位	堺晃一(法3)	1時間04分56秒

2日目 15000㍍決勝。この試合には三連覇をかけた大坪と、期待の一年高林が出場。同日に行われた予選で大坪はギリギリの通過だったものの、レース序盤から集団の先頭に立ちレースをひっぱり。一方、高林は大きな集団に加わっていた。

ラスト一周で大坪首位、高林2位となりこのまま駒大がワンツーフィニッシュでレースを終えると誰もが思ったが、そこに思わぬ伏兵が現れる。ラスト100㍍で後方の青学勢に抜かれてしまい、決死の追い上げを見せるが結果は高林3位、大坪4位でレースを終えた。

表彰式に現れた高林の顔には笑顔が無く、重たい空気が漂っていた。一方、大坪は予期せぬ敵の出現により三連覇を果たせずに終わり、「三連覇できなかったのは悔しい。プレッシャーが大きかった。」と語ったが、精一杯戦った彼の表情はすっきりしていた。(葉)

